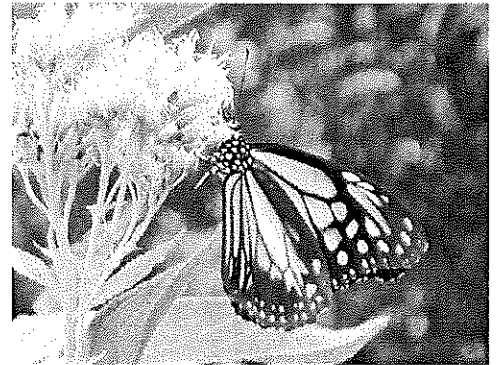


## 雑草の森にアサギマダラを呼ぶプロジェクト

# 参加者募集中！フジバカマを育ててアサギマダラを観察しよう

- 主催／立田山自然探検隊 共催／立田山野外保育センター雑草の森
- 期間／2020年6月～2020年10月
- 場所／立田山野外保育センター「雑草の森」
- 参加費／無料

南の国と日本各地の間を渡り鳥のように2,000Kmを旅する蝶・アサギマダラ。立田山はこの蝶の旅の途中の休息場所になっていて、毎年、立田山憩の森の林や草原では、主に夏から秋にかけて咲くフジバカマなどの花蜜を吸うためフワフワと飛び回るアサギマダラと出会うことができます。



この企画は、立田山にもっとたくさんのアサギマダラを呼ぼうと、アサギマダラが大好きなフジバカマを植えて休息場所を増やそうという第一弾企画。いつもお世話になっている「雑草の森」が舞台です。



計画では、皆さんが育て、花の咲いたフジバカマの鉢20個を雑草の森の一角に並べて「即席のお花畑」をつくり、アサギマダラが飛来する頃に「自然観察会」を開催したいと考えています。

皆さんの役割は、フジバカマの苗をプラ鉢に植えて、庭先で夏のあいだ育て、秋になったら雑草の森に届けるだけ。フジバカマの苗、プラ鉢、園芸用土、肥料は、立田山自然探検隊事務局で準備します。もちろん無料です。

お子さんやお孫さんと一緒にお気軽にご参加ください。ご応募お待ちしております。

**フジバカマ** キク科。「秋の七草」の一つで、万葉の時代から人々に親しまれてきました。日当たりの良い湿った土地を好みます。害虫にも強く、繁殖力が旺盛で、育てやすい植物で、背丈は1m程度です。

鉢植えにして育てる場合は、1日3時間以上日が当たる場所に置き、水やりを忘れないようにすれば、秋に、茎の先端に直径5mmほどの小さな花を、長さ10cm前後の房状に多数咲かせます。

## アサギマダラプロジェクト参加申込書

氏名(全員)	※お子様の年齢を書いてください。お子様のいる家庭が優先です。	
住所		連絡先☎
希望の鉢数	鉢 ※1家族2鉢までとさせていただきます。	
受取希望日	6月12日(金)・13日(土)・14日(日)の午前中 ※希望日に○印を。お渡し場所は「雑草の森」です。	

- ・フジバカマの鉢の受取り場所は、立田山野外保育センター「雑草の森」です。
- ・参加ご希望の方は、この申込書を、立田山自然探検隊事務局に郵送又はFAXしてください。

# 鉢植えフジバカマの育て方

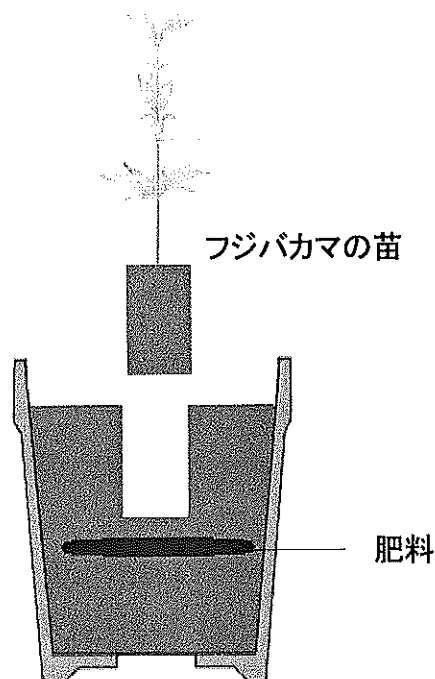


## ■フジバカマの鉢植えセット ~ 確認してください

①フジバカマの苗(黒いポット)	1
②植木鉢(プラ鉢)	1
③園芸用土(袋入り)	1
④肥料(発酵鶏糞)	1
⑤植物名札(白色)	2
⑥フジバカマの育て方	1

## ■フジバカマの植え方

- ①植木鉢に半分ほど園芸用土を入れます。湿気を好む植物なので鉢底石は必要ありません。(鉢底石を入れると水はけが良くなるので)
- ②肥料(発酵鶏糞)を入れます。
- ③さらに園芸用土を入れます。
- ④真ん中に穴を掘って、黒いポットから苗をとり出し、植え付けます。ポットの土が崩れないよう、できるだけ土をつけたまま植えましょう。
- ⑤水をたっぷりとやります。数日間は、鉢皿を敷いておくとおれにくくなります。
- ⑥名札の表に「参加種全員の名前」を、裏に「植え付けた日付」書いて差します。参加者の名前が1枚に収まらない時は2枚目の名札を使ってください。



## ■フジバカマの育て方

フジバカマが自生している場所は、草原の日当たりが良く湿気の多いところ。地植えで育てる場合も、鉢植えで育てる場合も、自生地の環境に近づけることが基本です。

- ①鉢はできるだけ日当たりの良い場所に置きます。1日3時間以上は日に当てましょう。
- ②毎日水やりを忘れずに。忘れそうなときは、鉢を、水を入れた鉢皿に入れてもOKです。
- ③植付後の肥料は不要です。肥料が多すぎると、葉ばかりが茂って花がつきません。
- ④自生地では背丈が1.5メートル程になることも。大きくなったら支柱を立てましょう。
- ⑤まれに害虫(コナジラミ、アブラムシ、ハダニ、コナガ)がつくことがあります。市販の園芸用殺虫剤で退治しましょう。
- ⑥花が咲き始めたら「雑草の森」に届けてください。フジバカマコーナーに、他の参加者の皆さんが育てた鉢と一緒に並べて「フジバカマのお花畑」にして、アサギマダラの飛来を待ちましょう。